

いしづち

愛媛労災病院広報紙第15巻第3号

(通巻第77号)

2016年7月6日発行

発行人：院長 宮内文久

理念

当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

基本方針

1. インフォームドコンセントの実践
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に推進していくため、患者さまの基本的な『権利と責務』を、以下のように宣言します。

【患者様の権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質の医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利

【患者様の責務】

- 4) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 5) 医療に積極的に取り組む義務
- 6) 快適な医療環境づくりに協力する義務

地域包括ケア病棟の導入にあたって

副院長 木戸 健 司

いつも皆様方には大変お世話になり有難うございます。さて愛媛労災病院では本年10月から地域包括ケア病棟(以下ケア病棟)を導入することになりましたのでその経緯、計画につきましてご報告いたします。

ケア病棟の制度は以前からありましたが今年度に入ってその導入が多くの病院で検討されています。その一番の原因は7対1病棟における「重症度、医療・看護必要度」の項目が変更され、より厳しくなったことです。具体的には昨年度まで「重症度、医療・看護必要度」の基準を満たす患者さんが15%以上入院していれば良かったものが、本年度からは25%以上の入院が要求されるようになりました。この基準の変更は当院のように急性期も診ながら、患者さんの希望によっては慢性期の方も入院して頂き、又急性期を過ぎた患者さんに転院してもらう後方病院を持たない病院にとっては大変厳しい変更です。昨年秋からこの変更の話は伝えられており、当院でも様々なシミュレーションを行ってみましたが最終的に南4階病棟をケア病棟に変更することとしました。

このようにきっかけは「7対1病床の削減」という厚労省の思惑に逆らえず、ケア病棟の導入に踏み切らざるを得なかったという他動的なスタートであっ

たわけですが、ケア病棟師長、医事課長、MSWと病棟の運用について相談していく中で、この病棟の持つ利点ということにも気付かされました。

最も大きな点は入院期間です。今まではもう少しリハビリをしたい、退院前に家屋の準備をしたいという希望のある患者さんにも在院日数の関係から退院してもらわざるを得ない場合もありました。ケア病棟では2か月間の入院が許されています。その間に患者さんと医師、看護師、リハビリ技師、MSW、そしてご家族やケアマネージャーが一緒になって、高齢の患者さんの1人1人にあった退院後の生活、ケアを考えていきたいと思えます。

当面は直接ケア病棟に入院して頂くことはせずに、一旦は急性期病棟に入院して頂き、時機をみてケア病棟へ転棟して頂くこととしますが、開業の先生方には今まで通り急性期の患者さんは勿論、少し治療に時間を要する患者さん(例えば脊椎圧迫骨折等)も是非御紹介頂きたく存じます。

この変更を前向きにとらえ、新しい病院像、地域医療像を構築していくきっかけとなり、最終的にはこの病棟が当院と患者さんや地域の先生方を温かく繋ぐ病棟となっていければと思います。

どうぞ宜しくお願い致します。

歯根のう胞のマイクロスコープ手術 2
 手術室紹介 3
 医療安全とくすりの適正な使用にむけて 3

愛媛労災病院に赴任して 4
 ふれあい看護週間行事 4

歯根のう胞のマイクロスコープ手術

歯科口腔外科部長 千葉 晃 義

顎の骨の中、歯の根の先に骨を吸収し膿の袋が出現する歯根のう胞と言う疾患があります。歯科医療に携わっている方はご存知と思いますが、そうでない方には聞き覚えのない病名ではないかと思えます。

原因は虫歯により、歯の中の神経や血管（歯髄）が壊死した歯や、過去に歯髄を除去した歯（根の治療をした歯）に起こります。進行して大きくなれば鶏の卵大程になり顎の骨が骨折したり蓄膿の原因になったりします。当科における昨年1年間の手術件数は57例です。その中で鶏卵大まで進行した6症例は全身麻酔で手術を行いました。

治療方法は、まず根管治療（根の消毒）を行います。しかし、かぶせた冠や根管の詰め物が除去できない、根が曲がっているなど治療が行えない場合には歯根端切除術を行うことで抜歯せずに助けることができます。

以前はこの手術の予後は不確実でした。当院では半年前より脳外科の手術で使用するマイクロスコープを使用して手術を行っています。現在のところスコープを使用する以前の手術に比べ確実に成功率が上がっています。マイクロスコープのメリットは、当然、顕微鏡下での手術のため術野が大きく見えるため小さな根の先もはっきり見えます。また、レンズの角度を自由に変えることができ肉眼では見るのが難しい部位も見る事が可能になり確実に手術することができます。

手術方法は歯肉を切開し、骨に小さな穴をあけ

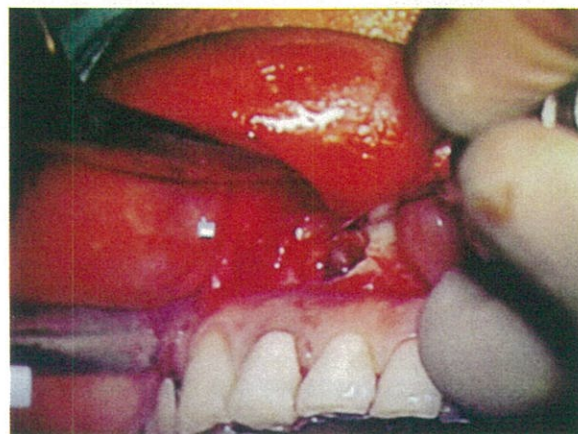
のう胞を摘出します。その後マイクロミラーで確認しながら汚染物質のある歯根の端を3ミリ程度切断します。そして超音波ダイヤモンドチップで逆根充窩洞を形成して接着性セメントを流し込み細菌の繁殖部を閉鎖、歯肉をもどして縫合します。

前回の保険の改正から歯科用CT(当院には無いので医科のCT)で診断してマイクロスコープを使用して手術を行うと保険の点数が倍になりました。それだけ有用性がある手術方法です。

今後、手術手技を研鑽して、以前であれば抜歯に至っていた大切な歯を多く残せるように手術を行いたい。

また、不完全な根管治療が原因でのう胞に進行した症例もありますので虫歯の治療、根の治療をしっかり行いたいと思います。

最後に、歯根のう胞が大きくなると全身麻酔での手術が必要になりますので、この疾患の最初の段階の虫歯を作らないことが大切で、やはり歯科は予防が大切であると実感しています。



手術室紹介

看護師長 土居 しのぶ

手術室は、手術室経験年数平均8.9年の熟達した看護師14名で予定・緊急手術に対応しています。

手術を受ける患者さん、ご家族の不安を軽減し、安心して手術に臨めるよう術前訪問を行い、その情報をもとに私たち看護師も安全・安楽な看護・医療を提供できるよう毎日カンファレンスをおこなっています。また、手術中の看護を振り返り、看護の質向上を目指して術後訪問も実施しています。現在は、手術を待つご家族の不安を軽減し、安心して待機していただけるよう術中訪問の実施に向けて取り組んでいます。

今後も、医師・薬剤師・臨床工学技士など他職種と協働して安全・安心な周術期看護に努めてまいります。



医療安全とくすりの適正な使用にむけて

主任薬剤師 福田 博音

外来調剤が院外処方へ移行され、薬剤師の仕事は大きく変わりました。外来患者さんの調剤中心であった仕事から、病棟での薬剤業務活動への転換がはかれてきました。患者さんに調剤された薬剤は体内でどのように効果が発揮され、副作用はどこまで回避・軽減できるか。医療安全活動を推進するために役立つ薬剤関連データの収集・提供などが、現在の業務の中心となりました。例えば薬物血中濃度測定による処方解析での副作用回避と至適薬剤量の提案、抗がん剤治療における治療の標準化・レジメン化と混注業務などです。また病棟薬剤師による患者さんの服薬指導、副作用の予防と早期発見とともに入院治療の評価、問題提起、処方への薬学的介入なども行われています。

安全で効果的な薬物治療が行われるために、入院時すべての患者さんの持参薬調査を行い、初回面談でアレルギーの確認、健康食品・市販薬を含めた重

複投与や相互作用の有無の確認を行っています。

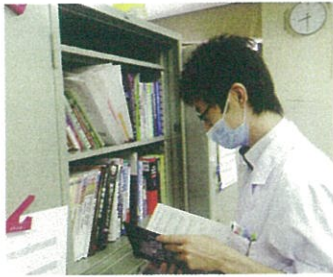
また、患者さんの検査データを確認し、最適な抗菌薬の選択に関する処方提案を主治医に行っています。

今後も患者さん、医師、医療スタッフに信頼される薬剤業務を展開してゆきたいと思います。



愛媛労災病院に赴任して

整形外科医師 金岡 丈裕



山口県から参りました医師4年目の金岡です。生まれも育ちも山口県で、初めての県外への赴任ということでまだ新居浜での土地勘は曖昧な状態です。ただ、整形外科疾患やその治療は全国共通であり、これまでの経験を生かしてよりよい医療を提供で

きるよう頑張っ参ります。

整形外科疾患は幅広く、時に複数の疾患が絡みあっていることも多々あります。骨折でも、頻度の高いものから頻度が低く難治性のものまで様々です。どのような状況でも冷静さを保ち適切な治療が行えるよう、整形外科スタッフとの連携を密に一丸となって診療できるよう精進してまいりますのでよろしくお願い致します。

ふれあい看護週間行事

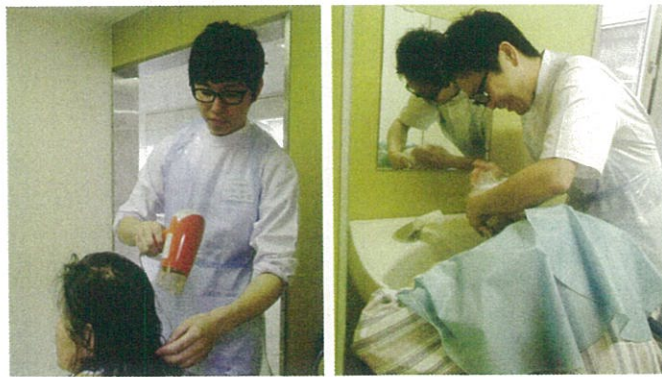
北6階病棟棟師長 高橋 令子

近代看護の母と呼ばれるフローレンス・ナイチンゲールが生まれた日が1820年の5月12日。この日をICN (国際看護師協会) は「国際看護師の日」と定めています。日本では少子高齢化の社会を支えていくため、すべての人に「看護の心」「ケアの心」「助け合いの心」を育てて欲しい—そんな願いを込めて「看護の日」が制定されました。看護週間には“看護の心はみんなの心に”をメインテーマとし、日本看護協会を中心に様々なイベントが開催されました。



当院では5月9日～5月16日まで看護部の部署紹介をはじめ、認定看護師の活動や薬剤部・放射線部・リハビリ部・栄養管理部・検査部・臨床工学部の活動を紹介するポスターを展示し、患者さんや地域の皆様に各職種の活動を知っていただく

ことができました。また、5月10日は玄関ロビーで看護・介護・薬剤などの相談イベントを開催し、来院中の方々にご参加いただきました。病棟では、洗髪や足浴・血圧測定などの看護体験を行い、看護への理解を深め、看護を身近に感じていただくことができました。



広報誌編集メンバー 委員長：福井脳神経外科部長 委員：木戸副院長、山田医局長、日野看護師長、和田看護師長補佐、加地看護師、大成薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、豊島臨床検査技師、今村管理栄養士、小尻総務課長、岸上総務課員、中山診療情報管理士、久次総務課員